

長野県飯山市井出川で発生した土砂災害における支援状況

北陸地方整備局は、平成29年6月14日（水）、長野県建設部との「災害時の相互協力に関する申し合わせ」に基づき、長野県飯山市井出川で5月19日（金）に発生した大規模な山腹崩壊に対する支援として、「鋼製砂防牛柵水制」4基（松本砂防事務所2基、神通川水系砂防事務所2基）の資機材支援を行いました。

鋼製砂防牛柵水制は、災害時に流木を捕捉した桑名川砂防堰堤下流に設置されることが検討されており、主に流木止めとしての機能が期待されています。



6月14日（水） 資機材搬出状況



鋼製砂防牛柵水制（写真は2基分）



積み込み作業

【土砂災害の概要】

発生日時：平成29年5月19日（金） 早朝

場所：飯山市照岡大どう地先

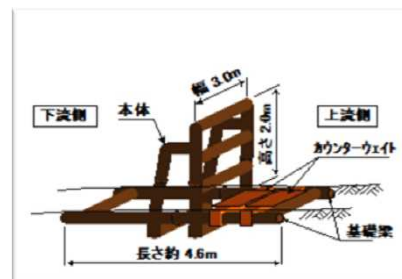
規模：長さ約500m、幅約150m、深さ約8m

推定崩壊土量 約60万^m³

山腹が崩壊し、下流の井出川に土砂が流入
泥流化して千曲川本川まで到達

「鋼製砂防牛柵水制」とは

河川・溪流における溪岸浸食防止、土石流や洪水流の流向制御、流木の捕捉、および樹林帯の保護等、様々な防災・減災用途に利用できる小型の鋼製構造物です。小部材に分割されており、運搬、架設、撤去が容易なことが特徴です。



平成23年の産屋沢土石流災害時に、応急対応として使用しました。



崩壊上部の状況



桑名川砂防堰堤より下流



保全対象付近の
河道状況



桑名川砂防堰堤の
流木捕捉状況

※長野県砂防課資料